

2023 年度 総会議案書



「さとり」対象林に作業路を造成

日時 2023 年 6 月 4 日
富田林の自然を守る会

富田林の自然を守る会

事務局
富田林市若松町 4 丁目 16-21
田渕武夫宅
TEL:090-8888-3912
e-mail:tabuchi@hb.tp1.jp

議案

第 1 号議案	2022 年度	活動報告
第 2 号議案	2022 年度	会計報告
第 3 号議案	2022 年度	会計監査報告
第 4 号議案	2023 年度	活動方針・活動計画案
第 5 号議案	2023 年度	予算案
第 6 号議案	2023 年度	役員案

第1号議案 2022年度事業報告

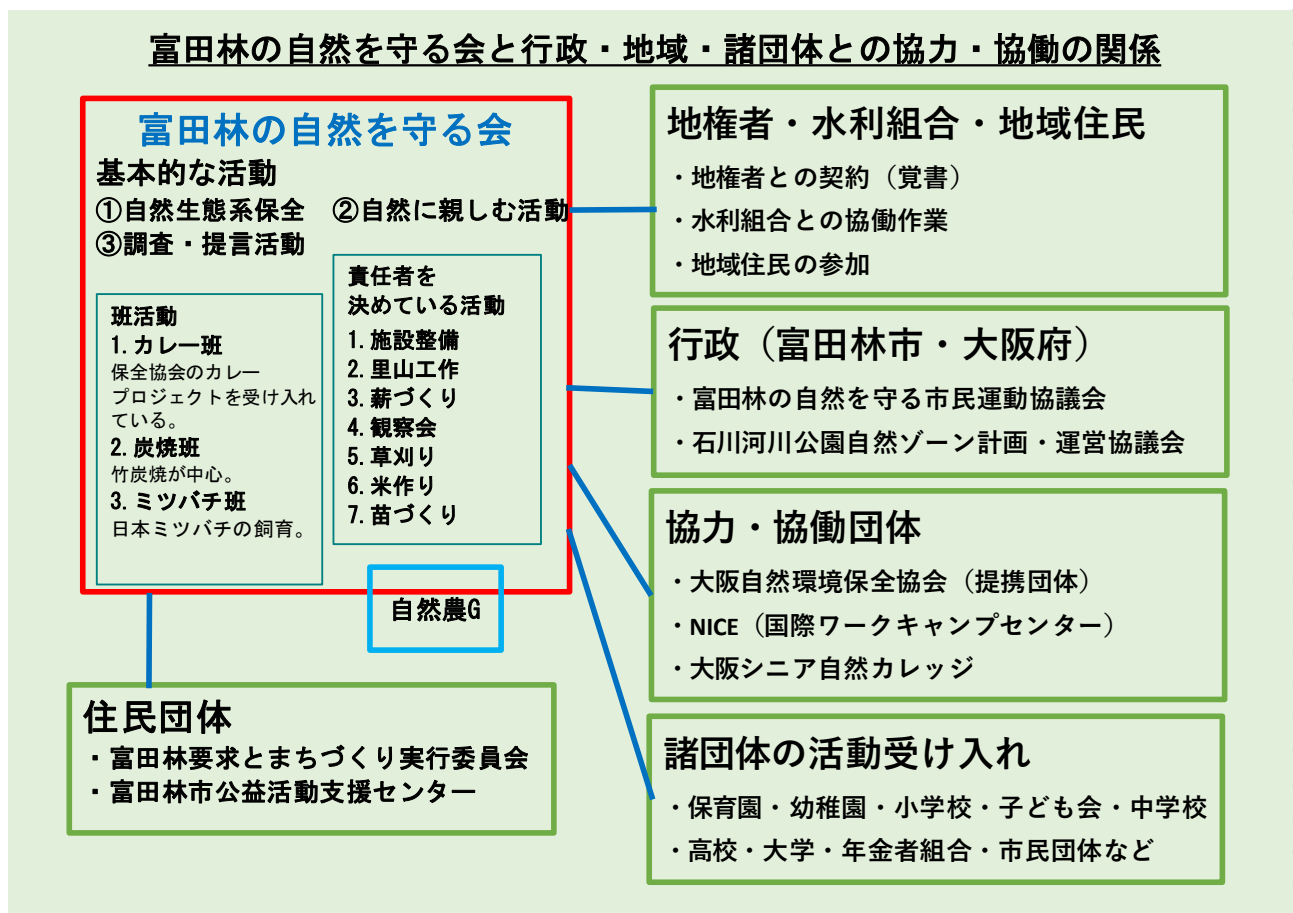
I. 活動の概要

1. 3つの活動

「富田林の自然を守る会(守る会)」の活動は大きく次の3つに分けることができる。2022年度もこの3つの活動を基本に、それぞれ関連性をもって統一的にとらえて取り組んだ。

- (1) 自然環境保全、生物多様性保全の直接的な活動(里山保全活動、市街地の自然保護、河川の自然保護など)。
- (2) 自然にかかわる文化的な活動(自然に親しみ、自然の素晴らしさ・大切さを体感し理解する活動)。
- (3) 調査研究・提言・要望・啓発活動(自然について調査・研究し、それに基づいて行政などへ自然環境保全について提言する、また市民に自然保護の大切さを啓発する活動)。

守る会はこれらの活動を会独自の活動に加え、外部の多くの団体と協力・協働して進めている。それらの協力・協働の関係を下図に示す。



一方、富田林市が進める「富田林の自然を守る市民運動協議会(協議会)」の行事の多くは守る会が中心となって進めているが、それらは上記3つ活動のいずれかに位置づけられる。(1)に関しては「里山ホリデー」、「中野町竹林整備」、(2)に関しては「米作り体験(田植え、稲刈り、稲こぎ)」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどこもちつき」、「里山生活入門」、「自然観察会(植物、昆虫、野鳥、水の生き物)」、(3)に関しては「自然観察会(②と共通)」がある。また、市が協議会の参加団体である里山倶楽部に委託して実施している「自然環境活用調査」に協力した。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大はいまだ収束には至っていないが、落ち着いてきていることから、事前申込制で人数制限を設けるなど感染防止に注意しながらほぼ例年通りの行事を実施した。

2. 行政との協働

富田林市は2002年に協議会を立ち上げた。2022年度の構成団体は、守る会、竜泉里山クラブ、NPO法人里山倶楽部、嶽の会、金剛の自然環境を守り育てる会、NPO法人学びと育ち南河内ネットワークの6団体で、日本国際ワークキャンプセンター（NICE）関西事務局がオブザーバーとして参加している。守る会は奥の谷・南原の里山保全および中野町の竹林整備を中心に、協議会と一体となって活動した。なお、中野町の竹林は2021年に地権者のご厚意により市に移管され、2022年度からは市が管理することになる予定であったが、移管手続きが遅れており、2022年度中に園路などの工事が行われ2023年4月から「岸本記念自然緑地公園」と命名され市の管理に移された（4月4日にオープニングセレモニーが行われた）。

3. 地域との協働（地権者、水利組合、地域住民）

協議会が雑木林、人工林、竹林などの地権者との間で覚書を交わして、下樵り、間伐、里山に侵入した竹の除伐・竹林管理などを実施した。また、水利組合、初芝富田林校、守る会、NICEが協働で溜池の土手や水路周辺の草刈りなどを実施した（2021年は新型コロナの影響で10月に実施したが、2022年は例年にもどして5月に実施した）。

4. 外部団体との協働

継続的に協力・協働の関係で活動を進めている外部団体は次の(1)～(4)の4団体である。

(1) NICE（日本国際キャンプセンター）

自然を守る会とNICEとの共催で毎年実施している国際ワークキャンプは2022年度も中止した（3年連続の中止となった）。週末ワークキャンプは10回開催した。また、9月に京都大学（14泊）、3月に神戸大学（10泊）のグループワークキャンプを実施した。

(2) 公益社団法人 大阪自然環境保全協会

毎年実施している自然環境市民大学の講座は昨年が続いて全て中止となった。第6回新・里山講座を受け入れ、4月17日に人工林間伐実習、6月12日に「里山保全と生物多様性」と題して講演、9月23日に竹炭焼実習を行った。また、カレー班（ナンバル班を改称）がカレープロジェクトを受け入れた。

(3) 大阪シニア自然カレッジ

竹の伐採実習とクラフトづくりの講座を5月18日（14期生）に行った。また、竹炭焼の講座を11月30日（15期生）に行った。

講座修了者で作る里山保全グループが、守る会が毎月第一金曜日に実施する「里山保全作業」に多数参加して雑木林（「さともり」対象林）の林床管理と畑作業を行った。

(4) ナーガ縄文楽会（縄文土器の野焼き）

縄文土器を野焼きする会である。粘土で土器を作り奥の谷の放棄田を利用して野焼きを行った。10月10日に土偶を作成、2023年2月25日に放棄田において野焼きを行っ

表1 受け入れた里山体験行事

No.	開催日	団体名	内 容	参加者数			
				子ども	大人	世話人	合計
1	4月18日	錦郡・川西幼稚園	水の池、果樹の丘など散策・弁当	23	9	2	34
2	4月19日	喜志・富田林幼稚園	水の池・果樹の丘など散策	26	6	3	35
3	4月22日	彼方幼稚園園児	みかん小屋近辺を散策	5	2	1	8
4	5月30日	錦郡幼稚園先生方	里山植物採取	0	5	1	6
5	10月23日	富田林市こども会 育成連絡協議会	竹の伐採、竹細工	10	11	3	24
6	10月24日	羽曳野新婦人	親睦会	0	11	1	12
7	10月31日	彼方、大伴幼稚園	里山体験	24	8	2	34
8	2月22日	錦郡幼稚園	里山見学	18	6	3	27
9	3月9日	彼方幼稚園	奥の谷散策	17	8	3	28
10	3月22日	羽曳野新婦人	里山散策（工作）	0	11	2	13
11	3月25日	ガールスカウト大阪	宿泊、里山散策、ドラフト	5	6	4	15
合 計				128	83	25	236

た。

(5) その他の団体の受け入れ

近隣の幼稚園、小学校、市民団体などの里山体験行事の受け入れや幼稚園のビオトープづくりの指導などを行った(表1)。

5. 班活動

守る会は2016年度から班活動を制度化して進めているが、2022年度から班構成を変え班としては①カレー班、②ミツバチ班、③炭焼班の3班とし、「施設整備」、「里山工作」、「薪づくり」、「観察会」、「草刈り」、「米作り」、「苗づくり(樹木など)」については代表(責任者)を決めて実施することとした。

6. 主な活動地

守る会の主な活動地は、里山保全活動では奥の谷および南原である。奥の谷地区は約12haあり、その内里山保全活動を行っているのは雑木林約0.9ha、人工林約0.8ha、竹林約0.4ha、水田(放棄田を含む)約0.1haの合計約2.2haである。南原地区は約5haあり、その内里山保全活動を行っているのは水田(放棄田)約0.2haである。奥の谷地区、南原地区を合わせると17ha中里山保全活動を行っているのは2.4haである。

市街地の自然保護として中野町の竹林(約0.13ha)の管理活動を行ってきたが、竹林が市に移管されたことから2022年度は活動を控えてきた。

7. 助成金

守る会は2022年度には林野庁からの「森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さとり交付金)」を受けた。この交付金は2022年度から3年計画で雑木林の林床整備を行うものである。初年度(2022年度)の交付金は808,500円であった。

II. 具体的活動

1. 自然環境保全活動(生態系保全活動)

(1) 里山保全活動

里山保全活動としては雑木林の管理、人工林の間伐、竹の除伐と竹林整備、溜池の土手や放棄田などの草刈りなどがあげられる。これらの活動の主体は大きく次の4つのカテゴリーに分けられる。それらは①協議会主催の行事(里山ホ

表2 里山ホリデーなど(協議会主催)

No.	開催日				行事名	作業内容	参加人数		
	年	月	日	曜			大人	子ども	計
1	2022	4	23	土	里山ホリデー	コナラの処理、風倒木伐採	5	0	5
2		5	21	土	里山ホリデー	人工林間伐	7	0	7
3		6	19	日	里山ホリデー	「さとり」対象林作業路造成	6	0	6
4		7	16	土	里山ホリデー	水の池補修、椿木整理、階段補修	4	0	4
5		11	12	土	里山ホリデー	薪用木材の運搬	3	0	3
6		12	18	日	里山保全と交流会	薪割り、交流会	16	1	17
7	2023	1	14	土	里山ホリデー	どんど焼き準備	5	0	5
8		2	11	土	里山ホリデー	シイタケ植菌、工作	6	3	9
9		3	11	土	里山ホリデー	里山神戸大学ワークキャンプに合流	6	0	6
合 計							58	4	62



「さとり」対象地のササ刈り作業

表3 里山保全作業(自然を守る会主催行事)

No.	開催日				作業内容	参加人数		
	月	日	曜			大人	子ども	計
1	4	1	金		雑木林作業路整備	10	0	10
2	5	6	金		雑木林作業路整備	11	0	11
3	6	3	金		「さとり」対象林作業路造成	9	0	9
4	7	1	金		「さとり」対象林作業路造成・植生調査	10	0	10
5	8	5	金		(里山保全作業はなし)	—	—	—
6	9	2	金		雨天中止	—	—	—
7	10	7	金		雨天中止	—	—	—
8	11	4	金		「さとり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	9	0	9
9	12	2	金		「さとり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	10	0	10
10	1	6	金		「さとり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	9	0	9
11	2	3	金		「さとり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	8	0	8
12	3	3	金		「さとり」対象林下刈り(ネザサ、蔓植物)	10	0	10
合 計						86	0	86

リデー;表2)、②
守る会主催の行事
(「里山保全作業」;
表3)、③外部団体
との共催・受け入
れの行事(ワーク
キャンプや講座な
ど;表4)、④主に
会員による自主的
活動(表6)であ
る。

No.	行 事	開催時期	主催団体	作業内容	参加者数		
					団体参 加者	守る会 参加者	計
1	週末ワークキャンプ(1泊:10回)	8, 9月を除く毎月	NICE	里山見学, コナラ伐採, 人工林間伐, 薪割り, 草刈り, 雑木林の下刈り, 観察路造成・補修, イノシシ柵補修, 木材搬出など	175	34	209
2	グループワークキャンプ(14泊)	9月	京都大学(NICE)	里山見学, 「さともし」対象地下刈り, みかん小屋補修, 観察路補修, 人工林間伐	110	63	173
3	グループワークキャンプ(10泊)	3月	神戸大学(NICE)	里山見学, 「さともし」対象地下刈り, みかん小屋補修, 観察路補修, 人工林間伐	80	55	135
4	グループワークキャンプ(1泊)	5月	大阪公立大学探検部	「さともし」対象林明示	9	5	14
5	里山関連の講座(5回)	4, 5, 7, 11, 2月	自然環境保全協会, シニア自然カレッジ	人工林間伐(実習)	42	11	53
6	溜池, 用水路などの草刈り整備	5月	守る会, NICE, 水利組合などの協働	溜池土手, 水路周辺の草刈り	10	10	20
7	各種団体(5団体:8回)	5, 6, 10, 11, 3月	自然環境保全協会, 楽描の会など	山地・放棄田などの草刈り	55	6	61
合 計					481	184	665

雑木林の管理は「さともし」交付金対象林の約5.8haで、2022年度の作業は主として林床のネザサの刈り取りと蔓植物の除伐を行った。この作業に先立ち、対象地の明示、作業路の造成、植生などのモニタリング調査を実施した。これらの作業は主として②および③で実施した。

人工林の間伐は「NICE forest」(主に週末ワークキャンプでの半日)及び奥の谷南部の人工林(主に里山関連講座の実習)で実施した。

竹の除伐と竹林整備については奥の谷東部の竹林(竹の侵入林)において炭焼班での竹炭焼用の竹の伐採や工作などに必要な竹の伐採、タケノコ堀りなどを実施した。2021年度は「里山保全作業」で実施してきたが2022年度は「里山保全作業」が「さともし交付金」対象林の作業にシフトしたため竹林整備は多くは進まなかった。

溜池の土手や放棄田などの草刈りは守る会の行事として計画した「草刈り」および水利組合などと合同で実施した恒例の「溜池・用水路などの草刈り整備」(表5)で行ったが、これらの行事だけでは不十分なため自主活動で補った。

上記の里山保全活動に参加した人数は延べ、里山ホリデーなどで62人、守る会主催の「里山保全作業」で86人、外部団体との共催・受け入れなどで665人、守る会主催の「草刈り」で30人、自主活動で284人で総参加人数は1,127人であった。

年	月	日	作業	参加者数
2022	5	2	(散策路立ち枯れ処理)	5
	5	29	(生き物池倒木処理)	9
	11	19	果樹の丘, 谷奥の放棄田の草刈り(自走式)	4
	11	26	果樹の丘, 谷奥の放棄田の草刈り(自走式)	5
	12	10	ミカン園, わらび田畦, 谷奥の放棄田の草刈り(自走式)	4
2023	1	8	わらび田, 西山裾の草刈り	3
	1	22	参加者なし中止	—
	2	10	雨天中止	—
合 計				30

開催日			作業内容	参加人数
年	月	回数		
2022	4	2	生き物の池周り草刈り, 散策路草刈り	2
	5	11	散策路補修(階段など), 枯死木処理, 倒木処理, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 薪割り, 猪作補修	28
	6	12	水田補修, 生き物池補修, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 猪作補修, 倒木処理, チッパー作業, ため池整備	29
	7	18	シイタケ原木廻り整備, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 生き物池修理, 散策路補修(階段など)	44
	8	6	生き物池補修, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 猪作補修	14
	9	7	草刈り(水田, 畦, 散策路など), 生き物池補修	16
	10	16	散策路補修(階段など), 草刈り(水田, 畦, 散策路など), 猪作補修, 薪割り, 水の生き物池管理	44
	11	8	薪割り, 草刈り(水田, 畦, 散策路など), コナラ伐採	24
	12	6	草刈り(水田, 畦, 散策路など), 木材運搬, 薪作り, 伐採木整理	19
	1	6	竹林間伐, 水田草刈り, 散策路補修, 木材運搬, 倒木処理	23
2023	2	7	シイタケ楕木造り, 人工林間伐, 散策路補修, 生き物の池管理, 南原草刈り	19
	3	7	生き物池補修, 倒木処理, 木材運搬	22
合 計				284

(2) 岸本記念自然緑地公園の開設(中野町竹林)

太古の石川の河岸段丘崖が石川左岸側に延びており、竹林を中心とする自然植生が虫食い状に残されている。これらの自然は里山の自然とは異なるが、市街化区域に隣接する自然として極めて重要であると考えられる。これらの中でも中野町の竹林は比較的まとまっ

た形で残されている。協議会は2009年から自然豊かな地域の憩いの場として整備してきた。

当竹林は2021年に岸本忠三氏をはじめ竹林の地権者から市が寄贈を受けた。2022年度からは「岸本記念自然緑地公園」として開園し市の管理となる予定であったが準備が遅れ、2022年度中に園路などの工事が行われ、2023年4月の開園となった。そのため2022年度は協議会による管理作業は行わず、工事を見守ることとなった(4月4日にオープニングセレモニーが行われた)。

「園路の拡幅(幅2.5m)」、「園路の真砂土による転圧舗装」、「園路への街灯の設置」、「東西の水路上部への転落防止策の設置」などの工事が進められた。当緑地公園にはヒメボタル、カブトムシなどが生息していることから、協議会ではこれらの生物に影響が大きいと考えられる広い園路幅および園路に設置された街灯について審議し、①園路幅については真砂土を敷いただけの舗装であるので、今後発生してくる植物を残すなどして1.5m程度の園路幅となるように管理する、②街灯については1. 繁殖期(4月～7月)は全面的に消灯する、2. 照度をできるだけ低くする、3. 赤色の照明とする(ホタルは赤色光には影響が少ない)、4. 通路のみを照らすように山側にカバーを取り付ける、5. 点灯時間は夕暮れから短時間とし人通りが少ない時間帯は消灯する。以上のことを努力することが確認された。

この竹林における比較的貴重と考えられる植物として次のものが確認されている。キケマン、ウラシマソウ、マムシグサ(近隣の里山から種子を採取し苗を移植したもの)、ヤブカンゾウ、センダングサ、オオシマザクラ(2012年に近隣の里山から記念樹として移植したもの)。また、昆虫類ではヒメボタルお



ウラシマソウ

中野竹林のヒメボタルの観察訪問状況 (2022)													
年	月	日	曜日	天気	富田林気温高低(℃)		ボタル出現数(約)			案内時間	家族組	人数	備 考
					最高	最低	段丘下	段丘上	合計				
2022	5	18	火	曇	22	15	10	0	10	20:00～20:30		4	下見、昨年のカメラマン、今年は少し遅い。
2022	5	20	金	曇のち晴	25	16	100	10	110	20:00～22:00	6	15	散歩中寄った段丘下だけが満足
2022	5	21	土	曇	21	17	100	30	130	19:40～22:00	5	15	身近でこんな大量のホタルが見られるのにおどろかれていた。
2022	5	22	日	晴	26	16	130	80	210	20:00～22:00	9	24	昔から住んでいるが、こんなにホタルがいるとは知らなかった。
2022	5	23	月	晴	28	17	250	200	450	19:50～22:10	3	16	近くの方が集団で観賞(6名)。個数が多く数え切れない、区切って数えた。
2022	5	24	火	晴	28	15	230	200	430	20:00～22:30	10	26	年配の方が増えてきて、時間をかけてホタル観賞を堪能されていた。
2022	5	25	水	晴	28	17	210	280	490	19:50～22:20	15	45	ホタルの多さに感動、訪問者が多く散策路も渋滞気味。家族人数が定かでない。
2022	5	26	木	曇のち雨	27	18	220	330	550	20:00～22:00	3	9	夜9時前より雨、訪問者は少なかった。蒸し暑かったためかホタルは多かった。
2022	5	27	金	晴	27	17	250	320	570	19:50～22:00	11	51	再度グループで訪問。子供家族連れ多い。家族人数が定かでない。
2022	5	28	土	晴	28	17	170	300	470	19:40～22:20	18	66	グループ子供家族が多い。年配者も多く時間を掛けて観賞。家族人数が定かでない。
2022	5	29	日	晴	31	17	110	350	460	19:40～22:00	15	46	若手グループの訪問者、段丘下が急激に減少してきた。家族人数が定かでない。
2022	5	30	月	曇のち雨	27	17	—	—	—	—	—	—	夕方より雨の為中止
2022	5	31	火	曇のち晴	26	17	100	200	300	19:50～22:00	13	54	集会グループの訪問者3組有り。もう少し長い期間案内して欲しい。
合 計				13			1880	2300	4180		108	371	
マックス									570				
注) 確認した観察訪問者													
鑑賞者の感想		1.昨年のカメラマンさん今年は少し遅いかな? 2.段丘下だけが満足されていた。3.他にホタル観賞に行ったが2～3匹しか見つからなかった。4.身近にこんなにホタルがいるのに驚かれた。5.地元の年配者は始め竹藪に入るのを躊躇されていたが、入って感動された。6.ホタルを養殖しているのか?養殖はしていない環境保全のみで自然発生している。7.また見たいいつまで見えるか、一応5月末まで案内予定と説明。8.いつまで開放されるのかの質問が多い。一応今月末まで。											

よびカブトムシが鳥類ではカルガモが確認されている。

協議会では「中野町竹林における植生管理の方策」として区域別に管理上の留意点を提示している。また、今後も適宜調査を実施して順応的管理の方策を提言することとしている。

2. 文化的活動

（自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動）

(1) 米作り体験（代表 三嶋富士夫、上角敦彦）

1. 目的

米づくりは、①自然を守る会の文化的活動（自然に親しみ、自然への理解を深める活動）のひとつとして、また②休耕田を復活することで、田の畔や溜池、水路など多様な環境をまもり、里山の自然景観と多様な自然生態系の保全のため長年続けられてきた。

2. 活動内容

2022 年度は、6 月 12 日の田植えに、大人 22 名、子ども 7 名の計 29 名が参加、10 月 15 日の稲刈りに、大人 17 名、子ども 6 名の計 23 名、11 月 5 日の稲こぎには、大人 25 名、子ども 8 名の計 33 名の参加があった。これら 3 行事は協議会主催行事として実施した。協議会行事には延べ 85 名が米作りを体験した。

2022 年の収穫量は粳米(ヒノヒカリ)約 70kg、もち米(みやたまモチ)約 50kg だった。尚、収穫したもち米は、1 月行事のどんど・餅つきに利用し、粳米は米作り行事の昼食や、NICE の週末キャンプ等に充てているが、余った米は会員に寄付の返礼品とした。

3. 年間の作業報告

1 月上旬から 田んぼに水をためる(もち田)・・・冬期湛水。

4 月 8・10・13・18・20 日 もち田畔塗、水田周りの草刈り。

4 月 24 日 種もみ播き、苗代づくり。

5 月 19・24・26・27・31 日 長田を耕す、有機肥料散布、畔塗、草刈り。

6 月 1・4・9・10 日 代掻き等田植え準備。

6 月 11 日 雨天中止のためもち田のみ自主活動田植え。

6 月 12 日 長田(うるち田)田植え。

6 月 13・16・17・20・22・24・29 日 草取り、畔草刈り、水管理など。

7 月 13・18・20・26・29・30 日 水管理点検。

8 月 4・6・8・17・20・24・26 日 水管理点検。

9 月 21 日水路点検。

10 月 15 日 稲刈り 稲のはざかけ。

11 月 5 日 稲こぎ(脱穀)。

12 月よりもち田には、わら・落ち葉を大量に投入し冬期湛水を始める。

2023 年度は、もち田に冬期に投入したわら・落葉により、米づくりにどんな影響があるのか、うるち田のコナギ等の草をいかに抑えるのか、まだまだ試行錯誤です。



はざかけ

(2) その他の文化的行事

その他の文化的行事を表 7 に示す。「タケノコ掘り」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、どんどともちつき」、「里山生活入門」、「観察会入門」を計画したが、「春の野草を食べる会」および「里山クラフト」は雨天中止となった。2022 年度は「もちつき」を復

活し通常の「どんどもちつき」とした。

里山生活入門は里山散策、たきぎ拾い、薪作り、わら縄づくり、カマドでご飯を炊くなどで里山生活を楽しんだ。

観察会入門(春を見つけよう)では、当日は寒くミツバチ、オタマジャクシ、テントウムシは見つからず、フキノトウも奥の谷では見つからず、近くで見つけたものでフキ味噌を作り、奥の谷で栽培しているシイタケを収穫してバター炒めにして昼食時に食した。

表7 その他の文化的行事

No.	行事名	実施日	参加人数			備考
			大人	子ども	計	
1	タケノコ掘り	4月16日(土)	5	0	5	中野町竹林
2	春の野草を食べる会	4月29日(金)	雨天中止			
3	里山クラフト	11月23日(水)	雨天中止			
4	どんどもちつき	1月15日(日)	22	6	28	
5	里山生活入門	1月28日(土)	4	4	8	
6	観察会入門	2月25日(土)	8	6	14	
合 計			39	16	55	

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

(1) 自然観察会(代表 田渕武夫)

自然観察会は表8に示すように、植物観察会7回(9回計画したが2回中止)、水の生き物観察会、昆虫観察会を実施した(野鳥観察会は雨天中止)。植物観察会では135種の開花植物を、水の生き物観察会では7種の生き物を、昆虫観察会では46種の昆虫を観察した。実施した観察会を通じての延べ参加者数は102人であった。

表8 観察会の実施状況

No.	行事名	実施日	参加人数			備考
			大人	子ども	計	
1	植物観察会	4月9日(土)	4	2	6	奥の谷
2		5月15日(日)	5	0	5	奥の谷
3		6月4日(土)	4	0	4	金剛福祉C〜観心寺
4		7月10日(日)	6	0	6	奥の谷
5		8月13日(土)	—	—	—	参加者なく中止
6		9月19日(月)	2	0	2	奥の谷
7		10月22日(土)	4	0	4	春日神社〜奥の谷(ドングリと草花)
8		11月27日(日)	6	0	6	奥の谷(木の葉)
9		2月25日(土)	8	6	14	奥の谷(観察会入門)
10		3月25日(土)	—	—	—	参加者なく中止
合計			39	8	47	
11	水の生き物観察会	6月25日(土)	14	13	27	奥の谷
12	昆虫観察会	7月23日(土)	16	12	28	奥の谷
13	野鳥観察会	2月19日(日)	—	—	—	雨天中止
総合計			69	33	102	

(2) 調査研究

1. 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加し、守る会も協力した。今回の調査は「平成28年〜令和3年度調査の全体まとめ」および「補足現地調査(東板持地区)」と「生物多様性保全の視点からの提案」であった。「自然環境保全活用調査その21」として調査報告書にまとめられた。



シロダモ

2. モニタリング1000里地調査(以下モニ1000と略す)

モニ1000里地調査は環境省が日本自然保護協会(以後NACS-Jと略す)に委託して実施している調査で、守る会は2009年から植物およびチョウの調査を奥の谷で行なっている。2022年は14年目となる。

植物の調査は2022年4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月23日(雨天中止)、10月28日、11月25日、12月23日(雪予報で中止)、2021年1月27日(雨天中止)、2月24日、3月10日に実施した。

チョウの:調査は2021年4月7日、5月13日、6月10日、7月8日、8月12日、9月9日、10月14日、11月11日、2021年3月24日に実施した。2021年1月および2月は冬季のため実施予定外であった。

3. 中野町竹林における植生およびヒメボタルの調査

① 植生調査

中野町の竹林は市街地の中に残された貴重な自然である。2021年に作成した「中野町竹林における植生管理の方策」に記載されている貴重な植物(市街地の自然植生として貴重と考えられる種)であるキケマン、ウラシマソウ、センダングサ、ヤブカンゾウ、マムシグサ(近隣の里山から移植)、オオシマザクラ(近隣の里山から移植)の生育を確認した。

②ヒメボタルの生息状況調査

昨年に続きヒメボタルの発生状況および鑑賞者数などを調査した。

4. 錦織公園の植生調査への協力

守る会は保全協会の都市公園自然調査研究会が行なう錦織公園での調査に協力した。

2022 年春と秋に錦織公園内の植生調査を実施する予定であったが、春は雨天のため、秋は調査者の都合により中止となった。

5. フクロウの調査への協力

守る会は大阪公立大学のフクロウ調査に協力した。また巣箱の作成にも協力した。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し産卵したが孵化には至らなかった。

(3) 要望・提言活動

1. 協議会での議論

①富田林市緑の基本計画の実現に向けて

富田林市緑の基本計画は2019年3月に新しく策定され、4年を経過したが計画のほとんどが未着手となっている。計画ではPDCAサイクルで進行管理をすることになっている。2020年に協議会で進行管理を行うこととなったが、その後も具体的には進んでいない。あらためてPDCAサイクルによる進行管理の方策について議論することになった。

②生物多様性保全について

多くの市民に生物多様性の重要性の認識を広めようと、協議会は2021年度に生物多様性保全講演会を企画したが、新型コロナウイルスの延防止等重点措置となり中止となった。引き続き富田林における生物多様性地域戦略の策定をめざして議論を進めている。

③森林環境譲与税の用途について

2021 年 3 月に市長あてに提出した要望書とそれに対する回答に基づき協議会などで議論し、その実現に向けて検討することとなった。2022 年度は市内の森林の状態を調査（視察）することになり、協議会役員、農とみどり推進課次長兼課長および課長代理で東板持地区を視察した。

〔2019 年度から森林環境譲与税が国から地方自治体に分配されている（2024 年度から住民税納税者 1 人当たり年間 1,000 円が課税される。譲与税はそれに先立って分配されている）。市はその全額を基金として貯蓄し、地元材（富田林市内の材ではなく河内長野市など近隣の材）を用いて新庁舎のフロントや会議室などを木質化する計画となっていた〕

2. 要求とまちづくり富田林実行委員会

多くの市民団体で取り組む「要求とまちづくり富田林実行委員会」は 2022 年 10 月 5 日に市長あてに 2023 年度予算要望書を提出し、2023 年 2 月 28 日に回答を得て 3 月 16 日に交渉を行った。この中で自然を守る会は〈農業と自然・住環境を守り、自然と歴史と、文化息づくまち富田林を〉の項を担当した。

また、実行委員会が取り組んだ市議会議長あての署名に協力した。

4. 施設整備（代表：市原二郎、楠本孝一）

(1) 活動目的

富田林の自然を守る会の諸活動を行っている各班や NICE を始めとする諸団体の活動を円滑に行うため、みかん小屋(以下小屋という)を中心とした施設の整備を行っている。

(2) 活動の実施概要

①水の生物池排水不良箇所の修繕(コンクリート製U字溝の設置)を地元山中氏と行った。

②小屋 2 階の板壁貼りを京都大学学生と協働で行った。

③小屋 2 階の板壁貼りと小屋付属舞台の老朽化した板の張替えを神戸大学学生と協働で

行った。(2 階板壁貼りは完成)

④テント下排水溝の老朽化した蓋の修繕を行った。

⑤作業小屋、テントの照明器具の適正な配置及びスイッチ類の整備を行った。

⑥その他、製材所へ間伐材の持ち込みを 8 月、12 月の計 2 回行い、施設の修繕、ミツバチ及びフクロウ巣箱の制作、里山工作に必要な角材や板材を確保した。

(3) 2023 年度の計画

- ・ 板材等確保の為、必要に応じて製材所へ間伐材の持ち込みを行います。
- ・ 施設の整備（修繕）は終わりのないものであるため、引き続き必要な個所について、整備等を行っていきます。

5. 班活動

(1) 炭焼班 (代表 柴山朗生)

1. 活動目的・内容

里山保全の一環として、竹林整備のため伐採した竹材の有効利用として、竹炭の生産を行っている。2023 年 5 月現在 15 名のメンバーが在籍しており、基本月一回の活動を実施し二つの窯を使い、それぞれ交互に【炭出しと竹充填】と【火入れ】を繰り返して約 6 kg の竹炭を生産している。竹炭は 2 kg 入りの段ボール箱に入れ、守る会への寄付（300 円以上）の返礼品として使用している。また、花炭（松ぼっくり、どんぐり等の炭）も作成し、訪れた方へのお土産としてお渡しし、興味を持っていただいている。



花炭



竹炭 2 kg 入りダンボール

2022 年度は「新・里山講座」「シニア自然カレッジ」「神戸大学ワークキャンプ」「ガールスカウト大阪 28 団」の竹炭焼き体験講座を計 4 回実施し、多数の受講生の方に炭焼きの実習と竹林保全の体験をして頂き、里山保全の趣旨を伝えることができた。今後とも対外的



9 月 新・里山講座「竹炭焼き体験」講座風景



11 月シニア自然カレッジ講座風景

な体験講座の実施により里山の重要性和楽しさを伝えていけるよう活動したい。また新たな炭焼班メンバー4名が加入し活動の幅も広がった。

また懸案として窯の老朽化による熱漏れなど温度不調が目立つようになり、大規模な修理が必要と思われる。



3月神戸大学ワークキャンプ講座風景



3月ガールスカウト講座風景



Bamboo Road 完成

伐採した竹をみかん小屋の前を通らず安全に、炭焼き小屋へ運ぶことができる

表8 2022年度の活動内容と参加人数 活動日数17日 延べ123名。

活動日	活動内容	参加人数
4月2日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。Bamboo road 完成	9
4月16日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。	7
5月14日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。	8
6月13日(月)	炭焼窯右側壁の全面修理。火口補修。火入なし	5
7月18日(月)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。	7
9月1日(木)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。	7
9月18日(日)	炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工。講座準備。	7
9月23日(金)	新・里山講座【炭焼体験講座】実施。受講生9、先方スタッフ5	8
10月29日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。池田屋さん来訪。	8
11月19日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工。講座準備。	9
11月30日(水)	シニア自然カレッジ【炭焼体験講座】実施。受講生27、先方スタッフ5	8
12月17日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。	7
1月21日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。句会メンバー7 来訪。	6
2月11日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工・充填。市民大学紹介。	7
3月4日(土)	窯火入、炭出し、次期炭焼き用竹の伐採・加工。講座準備。	7
3月18日(土)	神戸大学ワークキャンプ【炭焼体験講座】実施。受講生10	7
3月26日(日)	ガールスカウト大阪28団【炭焼体験講座】実施。受講生8、保護者5	6
合 計		123

(2) カレープロジェクト班(代表 水元 勇)

1. 目的：ネイチャー大阪(公益社団法人大阪自然環境保全協会)の講座(インストラクター養成講座)修了生を中心に、出来るだけ気軽に自然体験を行える場所を作ることとを目的としています。2018年3月より、ネイチャー大阪が立ち上げた「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト」の活動を受け入れ、より多くの一般の参加者を募集していく活動も始めました。

今年度はコロナによって休止されることもなく、順調に12月にカレー祭りを行うことができました。



収穫して干された稲



手作りした皿に盛り付けたカレー

2. カレーライスを本当に手作りするプロジェクトの目的

- ・食べ物が生き物からできているということを思い出すこと。
- ・料理の素材がどのように育ち、収穫され、流通し、販売されているかというプロセスを知ること。
- ・そのプロセスを知識としてではなく、体験を通じてわかる、ということ。

野菜やお米・お肉などを手作りする体験を通じて、普段の生活では感じにくい、それらを育てるためにはどのような環境が必要なのか、現状はどうなっているのか、考えるきっかけを作る。

3. 活動日/参加者数/作業内容（合計23回）

- 4/9 スパイスの種を蒔こう スタッフ7名 参加者25名
- 4/24 苗床作り スタッフ7名 参加者1名
- 5/3 メンマづくり1回目、モミ蒔き スタッフ6名 参加者12名
- 5/8 メンマづくり2回目 モミ蒔き スタッフ10名 参加者15名
- 5/21 菜種の収穫、夏野菜の植え付け スタッフ6名 参加者10名
- 6/5 田植え スタッフ7名 参加者16名
- 6/19 田植えとバーベキュー スタッフ9名 参加者24名

7/9 田んぼの草刈り スタッフ6名 参加者0名
 7/24 田んぼの草刈り スタッフ6名 参加者10名
 8/6 夏カレー祭り スタッフ15名 参加者27名
 8/21 にんじんと大根の種まき スタッフ6名 参加者3名
 9/4 ジャガイモの植え付け スタッフ8名 参加者4名
 9/17 にんにくの植え付け、田んぼの草刈り スタッフ4名 参加者4名
 10/1 畑の手入れ、コリアンダー種まき スタッフ4名 参加者3名
 10/22 稲刈り スタッフ9名 参加者32名
 11/6 脱穀 スタッフ8名 参加者30名
 11/20 ウコンとショウガの収穫 スタッフ6名 参加者7名
 12/3 カレー祭り1回目 スタッフ8名 参加者15名
 12/11 カレー祭り2回目 スタッフ9名 参加者36名
 12/26 田んぼの開墾 スタッフ5名 参加者1名
 2/12 畑と田んぼの手入れ、味噌作り スタッフ9名 参加者5名
 2/25 田んぼの畔塗り スタッフ5名 参加者5名
 3/12 田んぼの畔塗り、ソバ打ち スタッフ8名 参加者19名



(3) ミツバチ班(代表 山本 哲)

1. 目的

ミツバチ班は、日本在来種であるニホンミツバチの飼育と観察を通して、ミツバチの行動生態、人と自然のかかわり、里山の意義、生物の多様性の理解と普及を目的として、2017年1月より活動している。

2. 2022 年度の活動

本年度は前年度から冬越しした2群と4月、5月に分蜂した8群（自然入居4群、捕獲4群）の合計10群を飼育、観察した。活動では、巣箱の内検（巣箱内の蜂群の状況観察）、蜂蜜の採取、アカリンダニ対策（天井を二重構造にし、そこにメントールを設置）、巣箱設置場所の足場整備と草刈り、オオスズメバチ対策（金網付き巣門とネズミ捕りシートの設置）、冬季の防寒対策（稲藁で巣箱を囲う）、巣箱の製作、蜜蝋の精製など

を実施した。また休耕田の保全と蜜源植物確保のため、休耕田の草を刈って耕し、ソバとナタネを栽培した。飼育した蜂群は1月までに7群が逃去や消滅し、3群が冬越しした。そして3月には2023年度の分蜂群の自然入居を待つための巣箱を7個設置した。本年度の全活動回数は21回で延べ129名が活動した。



分蜂群誘導板を取り付けた木と捕獲した蜂群を入れる巣箱



分蜂群誘導板についた蜂球



巣箱に入れた蜂群



丘に設置した巣箱



耕した畑に種を蒔く様子



発芽したソバ



畝に生えたソバ



稲藁で防寒した巣箱

表 1 活動日毎の活動内容

回数	活動日	活 動 内 容	参加者数
1	4 月 12 日	隣接する河内長野市で捕獲し巣箱に入れた群の奥の谷への移設	2
2	4 月 15 日	隣接する河内長野市で捕獲し巣箱に入れた群の奥の谷への移設	2
3	4 月 18 日	内検(=巣箱内の蜂群の状況を観察)。分蜂群誘導板製作・設置。	9
4	5 月 2 日	分蜂誘導板についた分蜂群を捕獲し巣枠式巣箱に入れて設置。	3
5	5 月 3 日	隣接する河内長野市で捕獲し巣箱に入れた群の奥の谷への移設。	2
6	5 月 8 日	内検。巣枠式巣箱に巣枠を追加。巣箱設置場所の草刈り。	11
7	6 月 5 日	内検。重箱式巣箱に継箱(=蜂群のいる巣箱の下に巣箱を追加)。	2
8	6 月 12 日	休耕田(一石田)の草刈り。継箱。巣箱設置場所の草刈り。	10
9	6 月 16 日	休耕田(一石田)を耕うん機で耕し、畝を作ってソバの種を蒔く。	8
10	7 月 3 日	内検。採蜜。継箱。巣箱場所足場整備。メントール追加設定。	9
11	7 月 24 日	巣箱設置場所の草刈り。内検。継箱。オオスズメバチ防御巣門製作・取付。メントール追加設置。ミツバチが消滅した巣箱回収。	9
12	8 月 15 日	内検。巣箱回収。メントール用天井製作。メントール追加設置。	9
13	9 月 26 日	杉を伐採し巣箱設置場所への橋を製作・設置。オオスズメバチトラップ用粘着シート設置。	8
14	10 月 22 日	内検。休耕田(一石田)を草刈りし、耕す。	8
15	11 月 5 日	巣箱回収。休耕田(一石田)を耕しナタネの種を蒔く。痛んだ「ミツバチ注意」の立札を更新。	8
16	12 月 15 日	内検。メントール追加設置。稲藁で巣箱を防寒対策。	5
17	12 月 18 日	間伐材の製材準備(富田林の自然を守る会世話人で実施)。	1
18	12 月 21 日	製材した板の搬入(富田林の自然を守る会世話人で実施)。	1
19	2 月 6 日	内検。蜜蝋精製。	8
20	3 月 2 日	製材した板材で巣箱製作。内検。継箱。	8
21	3 月 21 日	待ち箱設置。巣箱製作。	6
合 計			129

5. 2022 年度の活動で特徴的だったこと

(1) 岸本記念自然緑地公園が開園された。

(園路幅、街灯など課題を残すことになったが、今後の管理の中でヒメボタルをはじめ生物への影響をできるだけ小さくする方向で検討することとなった)

(2) 中野町竹林(現岸本記念自然緑地公園)に 2021 年につづきヒメボタルが多数発生した。

(3) 守る会が京都大学と神戸大学のグループワークキャンプを受け入れた (NICE)。

(4) 守る会が林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さとり)」を受けた (808,500 円)。

(2022 年度から 3 年計画で奥の谷の雑木林 5.8ha の里山整備を実施する。2022 年度は林床のネザサの刈り取りと蔓植物の除伐を実施した)

(5) 協議会の構成団体の「金剛の自然環境を守り育てる会」が 2022 年度で解散することになった。

(この会は 2007 年にオオタカの生息する自然環境を守りたいと寺池台 3 丁目の住民が立ち上げた会である。寺池台 3 号公園の整備や寺池台小学校と米作りを行うなど地域の自然環境保全に大きく貢献した)

(6) 自然を守る会ホームページのリニューアル版が完成した (藤本氏)。

(7) イチョウウキゴケが奥の谷の水田で発見された。

(環境省レッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されている)



イチョウウキゴケ

(8) 「さとり」対象林に作業路を造成した。

(9) 「さとり」対象林のネザサの刈り取り除去および蔓植物の除伐がほぼ終了した。

第2号議案 2022年度 会計決算報告

1.一般会計

収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	増減 (a-b)	備考
繰越金	234,179	234,179	0	前年度からの繰越金
会費	100,000	100,000	0	
寄付	50,000	70,883	-20,883	米(もち・うるち)・竹炭・板などの寄付、奥ノ谷水利組合より
雑収入	10,000	12,021	-2,021	スクラップ、飲料、利子
自然保護特別会計より	0	0	0	
合計	394,179	417,083	-22,904	

支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	増減(a-b)	備考
行事費	50,000	24,008	25,992	精米代 歓迎会食費など
通信郵送費	15,000	6,994	8,006	世話人会報告郵送費
消耗品費	15,000	33,970	-18,970	金物、ロールペーパー、ドリル刃、割りばし、ネジくぎなど
ワークキャンプ費	100,000	0	100,000	中止
協賛金及び寄付	10,000	0	10,000	
予備費	204,179	36,500	167,679	草刈り機修理代など
合計	394,179	101,472	292,707	

* 次年度への繰り越し = 417,033 - 101,472 = 315,561円

2.自然保護特別会計

収入の部

項目	金額	備考
繰越金	1,184,458	
謝礼金・講師料	86,390	大阪自然環境保全協会(新里山講座)大阪シニア自然カレッジ等各種行事受け入れ
寄付金	640,000	さとり事業関係者から(64万)
合計	1,910,848	

支出の部

項目	金額	備考
守る会一般会計へ	0	
富田林の自然を守る市民運動協議会へ	197,470	
里山基金積立金(仮称)	500,000	
合計	697,470	

* 次年度への繰り越し=1,910,848-697,470 = 1,213,378円

3.里山基金特別会計

収入の部

項目	金額	備考
繰越金	500,000	
積立金	500,000	自然保護特別会計より
利息	17	
合計	1,000,017	

* 次年度への繰り越し=1,000,017円

4.UPS助成金特別会計

収入の部

項目	金額	備考
繰越金	211,619	
合計	211,619	

支出の部

項目	金額	備考
充電式草刈機	100,000	
充電式チェーンソー	80,000	
カケヤ	20,000	
その他	11,619	
合計	211,619	

第3号議案 2022年度会計監査報告

富田林の自然を守る会 2022 年度一般会計、自然保護特別会計、里山基金特別会計、UPS 助成金特別会計について歳入歳出決算書、証拠書類および帳簿を審査したところ、収支とも適正であることを認めます。

2023 年 6 月 1 日

富田林の自然を守る会会計監査
市川悦久 

第 4 号議案 2023 年度活動方針・計画

I. 活動の方針

自然生態系の保全・生物多様性の保全を目標に富田林市内全域の自然環境保全を視野に活動する。大きく分けて「自然生態系・生物多様性保全に係る直接的な活動」、「自然に関わる文化的活動(自然とふれあう活動)」、「自然観察、調査研究、提言・要望、広報・啓発活動」の3つの活動を統一的にとらえて活動する。また、自然豊かなまちづくりをめざし、行政や多くの市民や市民団体とも協力し、協働して活動する。

II. 具体的活動

1. 自然生態系・生物多様性保全に係る直接的な活動

(1) 里山保全活動

奥の谷および南原を中心に次のことに取り組む。①雑木林の林床管理(下樵りを中心に)、②人工林(スギ・ヒノキ林)の管理(間伐、枝打ちなど)、③竹林管理(雑木林および人工林へ侵入したタケの除伐、竹林の管理)、④作業路(観察路)づくり、⑤草地管理(休耕田・放棄田とその畦、ため池の土手などの草かり)、⑥水生生物の保護と育成(水の生きもの池の管理)。

当会の30周年記念事業として、「観察路とその両側約10mの里山的整備」を、2019年度を起点として開始したが、上記①～④の作業の中で引き続き取り組む。

また、森林環境譲与税を有効に活用し、市内の森林整備が大きく進むよう議論し提案する。

(2) 市街地の自然保護活動

市街地に残る自然は人々の生活にごく身近な自然であり、また、里山と里山の間をつなぐ生き物のネットワークとして極めて重要な自然である。

中野町の河岸段丘崖の竹林はその一つであり、2009年より協議会が(とりわけ守る会が中心となって)整備を進めてきたが、2023年度より「岸本記念自然緑地公園」として富田林市の管理となる。当緑地公園の管理者はまだ決まっていないが(2023年5月末現在)、管理作業は業者委託となる。協議会は開園に向けての工事に関連していくつかの問題点を指摘した(第1号議案「活動報告」に記載)。また、今後の管理の中で引き続き竹の間伐、外縁部の草刈りなどの管理を行うとともに、近隣の里山などから実生あるいは挿し木などで育成した植物を植栽し、市街地内に残る自然の見本林となるよう整備を進めることを提案する。協議会は2021年度に「中野町竹林における植生管理の方策」を作成している。これをさらに充実したものにしていくとともに、このような主旨を生かした順応的管理が必要であり、守る会は協議会の構成員として上記のようなことが反映されるよう努力する。

なお、市内には中野町の竹林以外にも市街地に残る自然が多く点在することからこれらの保全の方策について検討する。

(3) 石川の自然保護活動

大阪府が設置する「石川自然ゾーン計画・運営協議会」は「自然を守る会」から1名の委員を選任している。この協議会における、石川自然ゾーンのあり方について議論や調査活動などに参加する。必要に応じて石川全体の自然保護について検討する。

2. 自然に関わる文化的活動(自然とふれあう活動)

里山における人々の生活の中で、水田耕作、畑づくり、炭焼きなど様々な文化が形成されてきた。里山の自然を守るにはこれらの里山文化を守っていくことが大切であり、そのことを通じて人々が自然と触れ合い、自然の素晴らしさ、大切さを実感する。前年に引き続き以下のことを取り組む。①米作り、②竹炭焼き、③シイタケ栽培、④果樹栽培、⑤日

本ミツバチの飼育、⑥畑づくり、⑦野草を食べる会、⑧里山クラフト、⑨里山工作、⑩どんどともちつき、⑪自然観察(植物、昆虫、野鳥、水生生物；観察した結果は調査としても活用する)など。また、ナーガ縄文楽会のように外部の文化団体の活動を受け入れ、里山保全の観点から、放棄田の新しい活用について活動の幅を広げることも意識して取り組む。

3. 自然観察、調査・研究、提言・要望、広報・啓発活動

自然を守るためには、そこにどのような自然があるかを調査・研究し、それらの自然を守るにはどうすればよいかを考え、地域住民や地権者などの理解を得て、行政などに提言・要望して政策に反映することが必要である。

(1) 調査・研究活動

調査研究活動としては次のことを行う。①自然観察(上記2.-⑪において観察した動植物を記録し調査に反映する)、②自然環境保全活用調査(富田林市の調査に協議会を通して協力)、③モニタリング1000里地調査(植物、チョウ；環境省の調査で日本自然保護協会を通じて行う)と奥の谷におけるデータの整理、④岸本記念自然緑地公園の植生およびヒメボタルの調査、⑤「さともり」交付金の対象地における活動に伴う植生の変化。コドラート内の定期的植生調査、⑥大阪公立大学のフクロウ調査などへの協力。

(2) 提言・要望活動

提言・要望活動としては次のことを行う。

①「要求とまちづくり富田林実行委員会」に加入し、市内の各種市民団体と協力して富田林市に要望書を提出し市との話し合いに参加する(この中で自然環境保全に関する項を担当する)。また、当実行委員会が実施する市議会あての要望署名に取り組む。

②2020年度に市に提出した要望書(森林環境譲与税、生物多様性地域戦略の策定、富田林市緑の基本計画)の実現に向け協議会での議論も含めて市と協議する。

③2020年度に提出した「汐ノ宮駅周辺の植生に関する要望書」の実現に向け近畿日本鉄道株式会社と話し合いをもつ。

④その他必要に応じて提言・要望活動を行う。

(3) 広報・啓発活動

「富田林の自然を守る会/公式ホームページ」(2022年度にリニューアルされた)

(<http://tondabayashinoshizen.g3.xrea.com/>)、

フェイスブック「富田林の自然を守る会」

(<https://www.facebook.com/FuTianLinnoZiRanwoShouruHui?fref=ts>)、

ブログ「富田林の自然を守る会+奥の谷」)

(<https://okunotaninosatoyama.xn--u9jycua9732as8mulan81e9sryfi686a.com/>)

を適宜更新し、活動の状況や会の情報を広報する。「また、協議会が発行する「富田林の自然」誌の発行に協力する。会報「富田林の自然を守る会だより」の発行に努める。

Ⅲ. 自然環境を守る政策、行政・地域との協働

1. 富田林の自然を守る市民運動協議会

昨年にひきつづき、協議会の事業に積極的に取り組む。具体的には次の事業などが計画されている(富田林の自然を守る市民運動協議会2023年度活動計画より)。

里山保全活動(里山ホリデーおよび里山保全作業と交流会)、文化的行事〔田植え、稲刈り、稲こぎ、春の野草を食べる会、里山クラフト、どんどともちつき、里山生活入門、植物観察会、昆虫観察会、野鳥観察会、水の生き物観察会、観察会入門(春を見つけよう)〕。「富田林の自然」誌の発行、自然環境保全活用調査、生物多様性保全に関する取り組みなど。

2. 石川自然ゾーン計画・運営協議会

大阪府が設置している当協議会に1名の委員を送り、石川の自然環境のあり方について議論する。

3. 地域との協働

引き続き水利組合、NICE、初芝富田林校と協働で溜池の土手・水路の脇などの草刈りを実施する。また、奥の谷、南原などの地権者の理解を得て、里山保全活動について、地権者と協議会との間の「覚書」の交渉に協力する。

IV. 外部団体との共催、協力、依頼、相談など

1. NICE（日本国際ワークキャンプセンター）との共催事業

(1) 国際ワークキャンプ大阪富田林 2023

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み2023年度も中止する。

(2) NICE 週末キャンプ（プレキャンプ、秋・春合宿を含む）

原則として月1回の週末キャンプを「みかん小屋」に一泊して取り組む。

(3) その他

国際ワークキャンプ、大学などのグループワークキャンプについては原則10日以内の宿泊とし、年2回までとする。

2. 公益社団法人大阪自然環境保全協会

保全協会の提携団体として登録し協力して活動する。「自然環境市民大学」、「新・里山講座」、「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト（カレー班が担当）」などを受け入れる。また、自然環境市民大学や新・里山講座のOB会などの活動を受け入れる。

3. NPO 法人大阪シニア自然カレッジ

「竹の除伐・竹林整備」、「七草摘みと七草粥」の講座を受け入れる。また、当カレッジの「里山グループ」と協働して里山保全活動を行う。

4. ナーガ縄文楽会（じょうもんがっかい）

ナーガ縄文楽会の活動を受け入れ、縄文焼きの野焼きに協力する。薪作り、草刈りなどに協力して取り組む。

5. 富田林市市民公益活動支援センター

当支援センターに登録し、市内のNPOなどとの連携を図る。

6. 要求とまちづくり富田林実行委員会

当実行委員会に所属し、市に対しての要望書や市議会に対する要望署名などに取り組む。

7. その他

そのほか各種の依頼・相談は可能なかぎり受け入れる。

V. 班活動

班活動の体制を見直し、班としては炭焼班、カレー班、ミツバチ班の3班とする。その他の活動については活動単位ごとに代表者を置き、その活動単位の責任者とする。活動単位は当面、観察会、草刈り、米づくり、施設整備、薪作り、里山工作、里山植物の苗づくり、自然環境調査、森林管理、観察路整備とする。

VI. その他

1. 30 周年記念事業

富田林の自然を守る会は 2019 年 6 月に設立 30 周年を迎えた。記念事業として 2019 年を起点として奥の谷の観察路整備を開始した。この事業は今後も引き続き、各種の里山保全事業の中で取り組む。

2. 里山からの生産物の有効利用

一口 300 円の寄付に対して薪、間伐材(丸太、製材した板)、竹炭などを返礼品として提供する。

3. 助成金

「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業（さともり事業）」は 2022 年度から 3 年計画で「地域環境保全タイプ（里山林保全）」の事業を実施する。2023 年度は 2 年目で交付金は 476,300 円である。対象となる森林は彼方 2102 および 2092 の雑木林約 5.8ha である。作業は主として林床の小～亜高木の照葉樹の間伐とする。

4. 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染状況は収束とは言えないものの、政府は 5 類に移行し、多くの規制をなくしている。2020 年度に策定した「富田林の自然を守る会の活動における新型コロナウイルス感染防止のための指針」は廃止するが、各種行事の事前申し込み定員制(世話人を除き 20 人)及びみかん小屋での宿泊定員(10 人)は継続する。しかし、今後の新型コロナウイルス感染拡大の動向に注意し、世話人会が必要と判断した場合にはこれまでの規制を復活させる場合もある。

5. 活動の日程等

活動の日程等については「富田林の自然を守る会 / 公式ホームページ」(<http://tondabayashinoshizen.g3.xrea.com/>)に掲載する。

6. その他

①世話人会

月 1 回第一土曜日または日曜日を定例世話人会とする。場所は当面奥の谷のテント下とする。世話会の名称と世話人の役割などについて検討する。

②「会の在り方検討会」

2023 年 2 月より開始した当会を当面世話人会の午前に開き、自然を守る会の今後の活動の在り方について検討する。

第5号議案 2023年度 予算案

1. 一般会計

収入の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
繰越金	315,561	234,179	
会費	100,000	100,000	
寄付	50,000	70,833	米・竹炭・板・薪等による寄付
雑収入	10,000	12,021	スクラップ、飲料売り上げ、利子等
自然保護特別会計より	0	0	
合計	475,561	417,033	

支出の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
行事費	50,000	24,008	総会、歓迎会、精米代など
通信郵送費	15,000	6,994	世話人会報告など送付
消耗品費	40,000	33,970	
ワークキャンプ費	100,000	0	
協賛金及び寄付	10,000	0	
予備費	260,561	36,500	
合計	475,561	101,472	

2. 自然保護特別会計

収入の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
繰越金	1,213,378	1,184,458	
謝礼金、講師料	50,000	86,390	
寄付金	470,000	640,000	さともり事業関係者などから
合計	1,733,378	1,910,848	

支出の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
守る会一般会計へ	0	0	
市民運動協議会へ	300,000	197,470	
里山基金特別会計	500,000	500,000	里山基金積み立て
予備費	933,378	1,213,378	
合計	1,733,378	1,910,848	

3. 里山基金特別会計

収入の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
繰越金	1,000,017		
積立金	500,000		自然保護特別会計より
合計	1,500,017		

4. 森林・山村多面的機能発揮対策交付金特別会計

収入の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
地域環境保全タイプ	476,300		
合計	476,300		

支出の部

項目	予算額	前年度 決算額	備考
人件費	476,300		
合計	476,300		

第 6 号議案 2023 年度役員（案）

代 表 田淵武夫

会 計 上角敦彦

会計幹事 市川悦久

世 話 人：伊佐知子、石垣和美、市原二郎、奥村 勉、笠原英俊、金子芳正、岸本重男、
楠本孝一、五箇 哲、柴山朗生、瀬戸照行、三嶋富士夫、水元 勇、
本宮 氷、山本 哲

〔会員数：123 人、1 団体（6 月 1 日現在）〕